

## 1. 実況上の着目点

- ① 高気圧が東シナ海を東南東へ移動し、南西諸島や西日本と東日本太平洋側を覆っている。
- ② 低気圧がオホーツク海を北東進。日本海には下層暖湿気が流れ込み、気圧の谷となって次第にシアーラインを形成。北～東日本では日本海側を中心に雨や雪の降っている所があり、北日本を中心にやや強い風や強い風が吹いて波の高い所がある。
- ③ 500hPa 5220m付近のトラフがバイカル湖の西を東南東進。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は4日夜までに日本の南に中心を移し、6日にかけてゆっくり南東へ移動する。
- ② 4日は、1項②の低気圧がオホーツク海を北上し、別の低気圧がサハリン付近に発生して千島近海に進む。シアーラインは東北地方付近を通過して三陸沖に進み、5日朝までに不明瞭となる。低気圧やシアーラインの影響で、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では4日は、強風や風雪、高波に注意。シアーラインに向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。東北日本海側と北陸地方では4日は、落雷や突風に注意。また、シアーラインに向かう下層暖湿気や2項①の高気圧に覆われる影響で、北～西日本の850hPaでは気温が平年より5℃前後高い状態が続く。北～西日本の多雪地では6日にかけて、なだれにも注意。
- ③ 5～6日は、1項③のトラフに対応する低気圧が、急速に発達しながら、日本海から宗谷海峡付近を通過して千島近海に進み、前線が北～東日本付近を通過する。また、5日夜までに、別の前線が東シナ海から日本の南で顕在化し、6日朝までに前線上の伊豆諸島付近に低気圧が発生して東へ進む。これらの前線が通過した後は下層の寒気移流が強まり、日本付近は強い冬型の気圧配置となり、北日本を中心に、雪を伴って強い風や非常に強い風が吹き波が高くなりしける所や、大雪となる所がある。北海道地方では6日は、暴風雪に警戒し、大雪による交通障害、高波に注意・警戒。北～東日本では5～6日は、西日本では6日は、強風や風雪、高波、大雪、着雪、なだれに注意。さらに、低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～東日本では5～6日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北3m。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図